# 久留米シティプラザ ユースプログラム 新しい演劇鑑賞教室 参加者募集!!

1. イントロダクション、演劇ワークショップ
   6/5（日）13:00-16:00
2. 市原佐都子 / Q「妖精の問題 デラックス」関連事業
   プレレクチャー「劇場で考える ～ジェンダー・多様性～」
   6/11（土）14:00-15:30 ※終了後感想シェア会（30分間程度）
3. 「妖精の問題 デラックス」鑑賞、市原佐都子との対話
   7/3（日）13:30-17:00
4. 村川拓也「Pamilya（パミリヤ）」関連事業
   プレレクチャー「劇場で考える ～多文化共生～」
   11/27（日）14:00-15:30 ※終了後感想シェア会（30分間程度）
5. 「Pamilya（パミリヤ）」鑑賞、村川拓也との対話
   12/18（日）15:00-17:30
6. 振り返り
   12/25（日）14:00-17:00

劇場は、日々の楽しみを提供するだけでなく、今まで知らなかった価値観に触れ、自分の考えを深めるきっかけを与えてくれる場所です。日常とは少し違う空間で、私たちが生きる社会のことを、立ち止まって考えてみること。ここには、社会への気づきを深める「新しい演劇」との出会いがあります。また、トークや対話のプログラムを通じた「新しい演劇鑑賞」の体験の場があります。そんな「新しい演劇鑑賞教室」を、一緒に作ってみませんか。

企画監修・進行 **長津結一郎**
（九州大学大学院芸術工学研究院助教）

久留米シティプラザでは、2022 年度、新たに「知る／みる／考える　私たちの劇場シリーズ」として、独自の視点で時代を捉え、表現方法をも模索し応答しようと試みる意欲的な2つの演劇作品「妖精の問題 デラックス」「Pamilya（パミリヤ）」を上演いたします。

それにあわせ、とくに次代を担う若者層を対象に、作品鑑賞とアーティスト等との対話を組み合わせたユースプログラム「新しい演劇鑑賞教室」を始動します。演劇は、娯楽として非日常の体験をもたらすものである一方、他者や社会との関わり方を学ぶツールでもあります。本プログラムでは、演劇やアーティストを身近に感じてもらうことや、作品を通じて社会に目を向けること、対話や思考により視野が広がり、気づきが増えていくことを目的にしています。

**対　象／15～25歳程度**
○原則、指定する日程にすべて参加できること
○演劇経験不問。演劇をみてみたい人、大歓迎！

**定　員／15名（全6回参加）**
「妖精の問題 デラックス」2 3 または「Pamilya（パミリヤ）」4 5 のみの参加可　各5名程度
※ 定員を上回る応募があった場合は抽選で参加者を決定します。締切後、応募者全員に結果をご連絡 いたします。

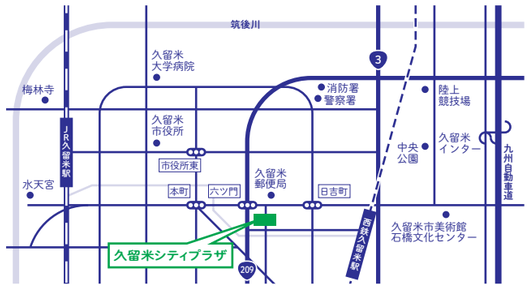
**料　金／3,000円（全6回合計）**
「妖精の問題 デラックス」2 3 または「Pamilya（パミリヤ）」4 5 のみ 各 2,000 円
※ すべて公演チケット料金を含んでいます。チケットの手配は不要です。 ※ 初回受付時にお支払いいただきます。

**応募方法／** 次の①～⑨を明記の上、応募先までメール、郵送のいずれかでご応募ください。
① 参加したいコース（全日程・妖精・パミリヤ）※いずれか１つ選択　② 氏名（ふりがな）　③ 年齢
④ 所属先（あれば。学校名／職業など）　⑤ メールアドレス　⑥ 電話番号（携帯番号）　⑦ 住所
⑧ 応募動機（文字数の規定はありません）　⑨ そのほか（参加できない日等の連絡があれば）
※メールでの応募の場合、返信をもって受付完了とします。5日以上たっても返信がない場合は、お問い合わせ先までご確認願います。


**ご応募・お問合せ／ 久留米シティプラザ「ユースプログラム」係**
TEL 0942-36-3000（10:00 ～ 19:00 ／全館保守点検による休館あり） FAX 0942-36-3087
kcp-j@city.kurume.lg.jp


交通アクセス
**久留米シティプラザ**
〒830-0031 福岡県久留米市六ツ門町 8-1
○ＪＲ　　：久留米駅から路線バス 10 分、徒歩 20 分
○ 西鉄電車：西鉄久留米駅から路線バス 5 分、徒歩 10 分
○ バス　　：「六ツ門・シティプラザ前」バス停下車
※ 久留米シティプラザ地下駐車場（114 台／1時間 200 円）ほか周辺の駐車場をご利用ください

https://kurumecityplaza.jp/




※ 新型コロナウイルス感染防止のため、中止・変更の可能性がございます。詳細については、久留米シティプラザ公式ウェブサイトをご確認ください。

Kurume City Plaza

久留米シティプラザ ユースプログラム

# 新しい演劇鑑賞教室 参加者募集!!

演劇作品の鑑賞と
アーティストとの対話などを
組み合わせたプログラム、始めます。

日程 | 2022年6月5日（日）→12月25日（日） 全6回
※２回参加等も可能です。詳細は中面および裏面をご覧ください。

募集締切 | 2022年5月23日（月）必着
会　場 | 久留米シティプラザ

主 催　久留米シティプラザ（久留米市）　※ 本事業は久留米大学文学部国際文化学科 および 九州大学大学院芸術工学府開設科目「スタジオプロジェクト」と連携しています。

# 実施概要

## 1 イントロダクション、演劇ワークショップ

プログラムの説明とともに、参加者同士の交流を目的に演劇ワークショップを行います。

日時 2022年6月5日（日）13:00-16:00

進行 **長津 結一郎**
（九州大学大学院芸術工学研究院助教）
多様な関係性が生まれる芸術の場に伴走／伴奏する研究者。専門はアーツ・マネジメント、文化政策。著書に『舞台の上の障害者：境界から生まれる表現』（九州大学出版会、2018 年）。

**多田 淳之介**
（演出家・東京デスロック主宰）
古典や現代戯曲、ネット上のテキストなどを演劇作品として上演する。国際・教育・地域を活動の柱とし海外公演や国際共同制作、学校でのコミュニケーション授業、公共劇場の芸術監督等でアートを活用したまちづくり、人材育成など数多く手掛ける。

### 市原 佐都子／Q

## 「妖精の問題 デラックス」

才能あふれる新世代の劇作家・演出家のひとり、市原佐都子が、自身の内面や生きづらさを起点に創作。誰しもが直面してきたであろう差別や偏見を、バンド演奏や漫才、歌、ダンスでユーモラスにかつ斬新に描きます。

日　時｜2022年7月2日(土)17:30、3日(日)13:30
会　場｜Cボックス
作・演出｜市原佐都子
出　演｜朝倉千恵子、筒井茄奈子、大石英史、キキ花香、廣川真菜美、富名腰拓哉、緑ファンタ
音　楽｜額田大志(東京塩麹／ヌトミック)
製　作｜ロームシアター京都

本プログラムの参加者は 3日(日) 鑑賞

撮影：中谷利明

© Flavio Karrer

**市原 佐都子**（Q ／劇作家・演出家・小説家・城崎国際アートセンター芸術監督）
大阪府生まれ福岡県育ち。2011年より Q 始動。人間の行動や身体にまつわる生理、その違和感を独自の言語センスと身体感覚で捉えた劇作、演出を行う。2020年『バッコスの信女−ホルスタインの雌』にて第64回岸田國士戯曲賞受賞。2021年、ノイマルクト劇場と共同制作した『Madama Butterfly』をスイス・ドイツで上演。

## 2 「妖精の問題 デラックス」関連事業 プレレクチャー
## 「劇場で考える ～ジェンダー・多様性～」

「妖精の問題 デラックス」関連事業として広く一般向けに開催するプレレクチャーに参加します。終了後は、ゲストを交えて感想シェア会を行います。

内容 作品の背景にあるジェンダーやセクシュアリティをめぐる諸課題をテーマにしたレクチャー

日時 2022年6月11日（土）14:00-15:30
※ 終了後、本プログラム参加者のみ感想シェア会（30分間程度）

ゲスト **石井 勇**（MINOU BOOKS 店主）
福岡県うきは市生まれ。福岡市天神にあるブックカフェにて書籍、雑貨のバイヤーを勤める傍ら音楽やデザインイベントなどの活動を経て、うきは市吉井町にて書店とカフェのお店「MINOU BOOKS」をオープン。近年、店頭でジェンダー、フェミニズム関連の書籍も多く取り扱う。

**正路 佐知子**（福岡市美術館 学芸員）
2007年10月より現職。フェミニズム美術史の視点をもとに、展覧会を企画し、文章等でも発信。近年担当した展覧会：「コレクション と展示のジェンダーバランスを問い直す」(2021-22)、「田部光子 展『希望を捨てるわけにはいかない』」(2022)。

## 3 「妖精の問題 デラックス」鑑賞、市原佐都子との対話

作品を鑑賞し、考えたこと、感じたことを言葉にしてみます。他の参加者やアーティストと対話を重ね、自身の観劇体験を深める時間です。

日時 2022年7月3日（日） 鑑賞 13:30-15:40 対話 16:00-17:00

### 村川 拓也

## Pamilya（パミリヤ）

取材を重ね、ドキュメンタリー的手法で舞台作品を創作する村川拓也。本作では、フィリピンから来日し筑後地区の介護福祉施設に勤める介護士が、施設の日常を舞台上で再現します。現代社会に生きる誰もが無関係ではいられない、支える／支えられること、その本質を問う作品です。

日　時｜2022年12月17日(土) 18:00、18日(日)15:00
会　場｜Cボックス
演　出｜村川拓也　　出　演｜ジェッサ・ジョイ・アルセナス
ドラマトゥルク｜長津結一郎

本プログラムの参加者は 18日(日) 鑑賞

撮影：富永亜紀子

© Guoqing Jiang

**村川 拓也**（演出家、映像作家）
ドキュメンタリーやフィールドワークの手法を用いた作品を、映像・演劇・美術など様々な分野で発表し、国内外の芸術祭、劇場より招聘を受ける。虚構と現実の境界に生まれる村川の作品は、表現の方法論を問い直すだけでなく、現実世界での生のリアリティとは何かを模索する。近作『事件』(2021) が第21回 AAF 戯曲賞にて特別賞受賞。京都芸術大学映画学科非常勤講師。

## 4 「Pamilya（パミリヤ）」関連事業 プレレクチャー
## 「劇場で考える ～ 多文化共生～」

「Pamilya（パミリヤ）」関連事業として広く一般向けに開催するプレレクチャーに参加します。終了後は、ゲストを交えて感想シェア会を行います。

内容 作品の背景にある多文化共生をめぐる諸課題をテーマにしたレクチャー

日時 2022年11月27日（日）
14:00-15:30
※ 終了後、本プログラム参加者のみ感想シェア会（30分間程度）

ゲスト **田中 優子**（外国人介護士育成・就労支援）
看護師・介護支援専門員・教員として約35年間、医療・福祉・教育の仕事に携わる。2009年より外国人介護士育成を中心に活動。現在は、介護福祉士養成校の講師、介護施設の EPA 介護福祉士候補生の国家試験対策を担当。

**田中 俊明**（リアルテクノロジー株式会社 代表取締役）
国立久留米工業高等専門学校卒業。三菱重工業等での勤務後、製造装置部品等の販売会社を設立。現在は、中国企業へのコンサルティングに従事。近年は外国人労働者に関心を持ち、フィリピンにおける介護士育成学校の整備等にも携わる。

## 5 「Pamiya（パミリヤ）」鑑賞、村川拓也との対話

作品から考えたこと、感じたことを言葉にしてみます。
他の参加者やアーティストと対話を重ね、自身の観劇体験を深めていきます。

日時 2022年12月18日（日）
鑑賞 15:00-16:10 対話 16:30-17:30

## 6 振り返り

ワークショップ、作品鑑賞、対話の時間を振り返ります

日時 2022年12月25日（日）
14:00-17:00

進行 長津 結一郎

プレレクチャー、公演は本プログラム参加者以外もご入場いただけます。
詳細は決定次第、久留米シティプラザ公式 WEBサイトに掲載いたします。
https://kurumecityplaza.jp/

デザイン／ 河村 美季